

新学術領域研究 領域代表者からの報告

2. 研究の進展状況及び成果の概要

【領域番号】 4002

【領域略称名】 顔認知

【領域代表者（所属）】 柿木隆介 （自然科学研究機構生理学研究所）

全く新しい研究グループの立ち上げであったにもかかわらず、領域の活動は非常に活発で、約150編の英文原著論文を発表した。自閉症などの疾患との関連が深い領域であったため、学術発表だけではなく、多くの研究者や一般の方々に研究活動を知っていただくことも重要であった。医学、心理学、工学の3つの分野を代表する学術誌で「顔認知」の特集号が生まれ、領域代表者と計画班員が編集を行った。これにより、多くの研究者に「顔認知」研究の重要性と現在までの研究の進展と今後の展望を示す事ができた。また、一般の方々向けには東京大学出版会より「顔を科学する」（編集：山口真美、柿木隆介）を上梓した。また、一般の方々を対象とした市民講座「顔認知の発達と自閉症の特徴、そして支援の展開」を日本科学未来館で開催し、300名近い方々が参加された。このような社会貢献に関しての研究達成度は非常に高いと自負している。

本領域の活動によって初めて出会った研究者も多く、まさに学際的な領域であったが、「顔認知」というキーワードの元に研究者が互いに切磋琢磨し助け合っ、非常に良い成果を上げたと思う。今後は、治療につながるような研究をより重点的におこなっていきべきだと考えている。世界で初めての「顔認知」に特化した研究領域であり、今後も何らかの形でこの素晴らしい研究体制を継続して、さらなる成果をあげることを期待している。